

リコールを通してのふれあい



小児歯科柏木医院 歯科衛生士

岩 男 好 恵

■ 略歴

昭和 59 年	福岡歯科大学附属歯科衛生士専門学校卒業
昭和 59 年	小児歯科柏木医院勤務
平成 6 年	福岡市健康づくりセンター非常勤勤務
平成 9 年	(社)福岡県歯科衛生士会専務理事

WHO（世界保健機構）は、1986年にオタワ憲章で”ヘルスプロモーション”を提唱していることをご存じでしょうか。現在先進国では、感染症より慢性疾患いわゆる生活習慣病が問題となっています。歯科の二大疾患であるう蝕と歯周病は、まさに生活習慣病そのものですが、これを改善するためには本人の健康へ向けたライフスタイルづくりが最も大切です。しかし、小児歯科では本人へ健康教育を行うまでには、妊娠中の母親から始まり乳幼児期から学童期へと何年かの歳月を必要とします。この間に、少しづつでも“歯って大切なんだ”と教えることが必要です。

また、家庭において子供を養育している母や父、祖父母といった人たちを通じて、歯科健康教育を実施してもらおうとより効果的ですが、まだまだ保護者自身が自分自身の健康づくりを確立できていない状態です。子供においても、歯の痛みなどで困った経験が少ないため、セルフケアに関してさえ、ただめんどろと感じているのが実状かもしれません。

以上のような人たちに対して、健康教育・セルフケアの確立・ライフスタイルづくり等を小児歯科で実施するためには、信頼関係に根ざした長期継続が必要不可欠です。このため当院では、歯科衛生士による担当制にしたり、オリエンテーションに力を入れたりして、出来るだけ接触の機会を多く持つように心掛けています。

親子での健康づくりに一歩でも近づくために何が必要か、特に子供とのコミュニケーションや母親へのカウンセリング等について考えてみたいと思います。